

平成28年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473301008	事業の開始年月日	平成17年12月1日
		指定年月日	平成17年12月1日
法人名	有限会社 真全		
事業所名	グループホーム まっとう		
所在地	(〒226-0026) 横浜市緑区長津田町2365番地		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成28年9月16日	評価結果 市町村受理日	平成29年2月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様も職員の「まっとう」にいて良かった、幸せだったと思われるような事業所作りに励んでおります。利用者様の能力に応じた、尊厳あるケアを実践しております。また、利用者様ニーズに対応した個別ケアの実践のために、バリデーション教育にも力を入れ、成果を上げております。また、今年度は、全利用者を対象とした外食会を開催できました。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成28年10月13日	評価機関 評価決定日	平成28年12月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の概要】 事業所は、JR横浜線・東急田園都市線の長津田駅から線路に沿って徒歩約10分、坂道を登った小高い丘の上に位置し、周囲は緑豊かな静かな環境にある。木造2階建ての2ユニットのグループホームで、安全対策として床に滑り難いカーペットタイルを敷いている。各フロアからはリゾート地を思わせる景観が見渡せる。事業所前の菜園で、ボランティアによって育てられた季節毎の野菜が食卓に彩りを添えている。</p> <p>【理念に基づく支援の実践】 法人代表者が設立時に定めた「利用者がまっとうな生活を送れるように職員は任務をまっとうする」という趣旨の理念は、職員に浸透しており、日々のサービスで実践されている。職員はバリデーション療法という認知症介護の手法を学んでおり、常に利用者を敬う気持ちを持ち、行動や思いに共感して受け入れるように心掛けている。日頃、コミュニケーションを密にとりながら傍に寄り添ってケアを行っている。調査訪問時には、壁に掲載する写真を貼った全判紙の入れ替えの最中だったが、利用者たちと職員がテーブルを囲み笑顔で言葉を交わしたり手を添えたりしながら、写真選びや貼り付け作業を行っていた。</p> <p>【豊富な外出行事】 日常の散歩がしにくいという立地条件であるが、その分、利用者の外出行事を数多く行っている。近隣の桜の名所の花見、月2回程度のドライブ、母の日や父の日の外食などのほか、同じ法人の施設で行われるコンサートやマジックなどのイベントの見学に行っている。近隣の障害者施設のひな祭り見物や、小学校の運動会見学も利用者の楽しみとなっている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム まっとう
ユニット名	Aユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	グループホーム まっとう
ユニット名	Bユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に理念を掲示し、朝礼時に理念を唱和することによって、理念の共有は出来ている。実践については、フロア会議、面談を利用し徹底している。	法人代表者の介護に対する思いがこもった理念は、玄関やユニット事務室に掲示され、職員は朝のミーティングなどで唱和して共有している。職員は、利用者の意向を尊重し、利用者が出来ることをしながら自立した生活が送れるよう支援している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に正式加盟するとともに、自治会で開催される行事（どんど焼き、盆踊り等）、地域で行われる行事（長津田祭り、神社例大祭、小学校運動会、敬老会等）に、利用者様とともに参加しております。	自治会から回覧板が届き、地域の情報を入手している。自治会開催のどんど焼き、盆踊りなどに参加している。近隣の小学校から「学校だより」が届いたり、運動会を見物に行くなどして交流している。歌手や草笛、傾聴などのボランティアが定期的に訪れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	長津田地域ケア会議に出席し、認知症の人たちへの支援策を提案するとともに、地域活動としてのグループホームの役割を提言しました。また、職員として地域活動に参画できるようキャラバンメイトを2名輩出しました。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民代表者・民生委員・地域包括センター職員からの情報を、利用者様のレクリエーション等の活動に役立てている。また、頂いている貴重な意見が、事故削減に結びついている。	運営推進会議は、2か月に1回実施している。家族代表、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、法人本部役員、管理者、職員が参加している。事業所の運営状況・活動内容の報告や意見交換を行っている。家族の意見により、事業所の年間計画に会議やイベントを組み込んで開催日を定め、家族が出席しやすくした。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	緑区役所、高齢・障害支援課とは、高齢者支援担当、介護保険担当の両係と、入居相談、更新申請を中心に、相互訪問しながら、連携を取っております。	緑区高齢者支援課と連携し、地域包括支援センターを介して入所者の紹介を受けたりしている。要介護認定更新調査に、家族と共に立ち会うことがある。長津田地域ケアプラザの会議に参加して、グループホームの役割を提言している。横浜高齢者グループホーム連絡会に参加して活動している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束行為は、フロア会議、朝礼、掲示などにより、全職員が理解しております。2階内玄関のみ、危険防止の観点から、施錠しております。	契約書に身体拘束をしない介護について明記し、契約時に説明している。フロア会議のときに研修を実施して、職員に拘束排除を周知・徹底している。車椅子利用の方は、できるだけソファに移乗してくつろいでもらっている。玄関と1階フロア入口は施錠していない。2階のフロア入口は安全確保のため施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修による知識の再確認、フロア会議、朝礼、掲示で高齢者虐待の防止・早期発見は徹底されております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修やフロア会議で学ぶ機会をもっており、区役所と連携して、1名の成年後見制度の適用ができました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結に当たっては、利用者様の不利益になることがないことを基本に、充分話し合いを持ち、不安・疑問点がない形で入・退去頂いております。また、変更・改定の際には家族会で疑問がないよう、充分議論させて頂いております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは、日常コミュニケーションの中で、ご家族様からは、御来所時の面談、年2回開催しております家族会で、意見・要望を受け入れ運営に反映しております。外部者へ表せる機会としては、地域運営推進会議を2ヶ月に1回開催しております。	年2回の家族会、運営推進会議やイベントなどを通じて家族と意見交換を行い、意向や希望を把握している。またメールのやり取りで意見を聞いている。利用者の家族から入浴をしたがらないとの相談を受け、職員が話し合い、声かけや誘導を工夫した結果、週2回の入浴ができるようになったケースがある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催するフロア会議、運営会議で機会を設けるほか、年1回以上実施する個人面談において、多くの意見・提案を頂き、運営に反映しております。	管理者は、毎月開くフロア会議やカンファレンスで、職員に自由に意見を出してもらい、運営やサービスに反映させている。排泄の誘導方法について意見を出し合い、利用者個々のペースに合わせるように改善した。毎年行われる個人面談で職員の希望を受けて、外部研修受講を勤務扱いにすることで資格取得がしやすくなった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	同一労働同一賃金を基本とした給与体系を持ち、職員の家庭環境に応じた雇用体制を確立、教育機会を平等にすることにより、向上心を持てるよう環境整備しております。また、過重労働の緩和の観点から、機械化による職場環境の整備に努めております。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、各職員の能力を把握し、各人に見合った外部研修の受講を進め、受講結果を職場にフィードバックさせ、OJT教育に反映させています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	日本認知症グループホーム協会を主体に、横浜市グループホーム連絡会（青葉・緑ブロック）に積極的に参加し、会主催の研修会には、全職員対象で参加し、年2事業所との現場研修に6名程度の職員を派遣し、受け入れ、交流しております。また、認知症を考える会オレンジに参加し、グループホーム以外の同業者との交流も図っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分なアセスメントに基づき、ご家族様と一緒に面談することによって、ご本人の理解できる範囲での、説明を行い、不安の払拭をするとともに、ご要望も受け入れております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分なアセスメントに基づき、ご利用者様と一緒に面談することによって、十分な説明を行い、不安の払拭をするとともに、ご要望も受け入れております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応 に努めている	アセスメントを充分に行う事によって、「その時」必要としている支援を見極め、医療を中心としたサービス利用に努めております。また、ご利用者様の直前までの生活を継続できるよう配慮しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	傾聴と寄り添いを基本に、理念にある、「嫌がることを強制しない」「人生の先輩として敬いの態度で接する」など、対等の人間関係が醸成出来る様にしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、「今月のお知らせ」「まっとう通信」などで近況をお知らせし、情報の共有化を図るとともに、三者面談などで、ご家族の絆が損なわれることのないよう配慮し、家族の支えが一番重要であることを理解頂いております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自治会の催し、敬老会などの地域の催しに出席頂いたり、親戚・ご友人の来所の際には、大事なお客様としての接し方をし、継続した関係が保てるよう支援しております。また、手紙の代読・代筆で、継続した関係が築けるよう支援しております。	利用者や家族は地域の方が多く、一緒に馴染みの店に買いものに行ったり、外食したりしている。以前からの知人や友人から手紙や年賀状が届いた際には、返事を出すなどの支援している。利用者が幼稚園教諭をしていた当時の教え子が時折、来訪して談笑している。馴染みの人や友人が来訪した場合は、お茶を出して居室やリビングで歓談してもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様個々の性格を把握することにより、孤立化を防止し、人間関係の軋轢が生じそうな際には、職員が必ず関わり、関係の改善に努めております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、電話、手紙などを通じて、関係を保ち、要請に応じて、相談・支援を行う体制があります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。 困難な場合は、本人本位に検討している。	各利用者様と随時話し合いを持ち、現状に対する不安・不満の把握をし、都度改善の提案を行っています。また、日常の活動から見られる不安・不満を感じ取り、傾聴することにより顕在化し、職員間の共有によって改善する場合があります。	利用者とは、日常の会話や面談の際に、要望や意向を聞きとっている。意思の疎通が困難な場合は、表情や動作などから思いを汲みとっている。把握した情報は、業務日誌などに記録して共有している。外に出たいという思いを把握して、家族の協力を得て外出を行った事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族から来歴を聞き取り、「私の歴史」を作成することによって、人生の理解を深める努力をしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	画一的に型にはめることなく、本人本位の過ごし方を尊重しております。役割分担が、ご利用者様の意識向上に役立つことから、各人に見合った役割の生み出しに努めております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員による毎月のモニタリングに加え、毎月サービス担当者会議を実施したうえで、ケアの在り方を策定し、医療関係者の考えを参考にしながら、ご本人・ご家族様にご理解頂ける介護計画を作成しております。3ヶ月に一度のケアプラン提示に関わらず、必要時には必ず見直せる体制を作っております。	アセスメントで利用者や家族からケアや暮らしの希望を聞き取り、それをもとにケアプランを作成している。プランの項目に沿った実施記録をもとに、居室担当者がモニタリングや評価表を作成している。カンファレンスでは、計画作成担当者、管理者、居室担当者、当直職員が話し合い、見直しは通常3か月、変化がある場合はその都度行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記載事項のうち、変化事項・新規ケアのアプローチ結果・気づきは、業務日誌に落とし込み、情報共有を効果的にするとともに、実践や介護計画に反映できるようにしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の要請に応じ、外出・外泊支援を行っております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア・自治会の催し・地域の催し・近隣施設での演芸会など、地域資源を最大限活用することにより、豊かな生活を楽しんで頂いております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係は継続し、ご本人・ご家族が希望する、適切な医療提供の支援をしております。	協力医が月2回、利用者全員の訪問診療を行っている。看護職員が週1回、健康管理などを行い、看護ノートに記録して職員と情報を共有している。訪問歯科医は月1回来訪し、口腔ケアや必要に応じて治療を行っている。専門科目についての受診も支援している。薬剤師が利用者全員の薬剤を仕分けして持参している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員ノートに、職員からの情報を記載することによって、全利用者のニーズを看護職員が把握でき、支援できる体制をとっております。また、看護職員は、対応内容を業務日誌に記載することによって、フィードバックしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院された際には、職員が毎日訪問し、現状把握に努め、早期退院へむけて病院関係者との話し合いを持っております。通常より、病院開催の交流会には参加し、関係づくりを行っております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居時には看取りの説明を実施するとともに、ご利用者様のご年齢・心身状況を勘案し、早い段階から、急変時の対応についてご家族と話し合いを持っております。	契約時に「看取りに関する指針」を説明している。事業所の方針は、新人研修で職員に説明し、フロア会議で看取りの研修を行っている。昨年度は、2例の看取りを行った。うち1例は、一旦入院したが、家族の希望で退院し、医師を交えて話し合い、家族の協力を得ながら看取りケアを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を順次受講することにより、応急手当が可能になり、急変時の対応方法・緊急連絡網を掲示し、避難訓練を通じて初期対応訓練を実施しております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練により、避難手順は全職員が習得し、地域の防災訓練に参加するとともに、自治会と協力体制を構築しております。	防災訓練は、消防署が立ち会って消火訓練と夜間想定訓練を実施している。地域住民の協力もある。通報係や避難担当など、災害時における職員の役割分担が決まっている。災害備蓄は3日分以上の飲料水、食料、カセットコンロやおむつなどが、外部駐車場にある倉庫内や建物内に分散して保管している。	災害備蓄の管理表を作成して備蓄品の状況を把握し、回転備蓄を実施することを期待します

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にもあります通り、入居者の気持ちを中心に考え、人生の先輩として敬いの態度で接しております。	職員は、理念に基づき、利用者を人生の先輩として尊敬の念をもって接している。接遇やマナーの研修を行っている。慣れなどにより気になる言葉遣いや態度があった場合は、フロア会議で議題として取り上げ、改善について話し合っている。個人情報に記載された書類は、事務室の施錠できる書棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用様に寄り添い、傾聴することで、ご利用様の希望を感じ取り、ご本人様の可能な手段で自己決定頂いております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の過ごし方については、ご利用様の考えを第一にし、必ず合意を得た上で行う事としております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	週2回の入浴時の髭剃り、毎朝の髭剃り、起床時の整容、ご本人やご家族様が希望するおしゃれが出来る様支援しております。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前の口腔体操に始まり、一緒に食事をし、利用者様の好みに合った味付けを考えることによって、楽しくお食事頂いております。	栄養チェックされた献立と調理済食材を専門業者が配達し、職員が湯煎している。ご飯と味噌汁は職員が作っており、ボランティアが畑で育てた旬の野菜を使うこともある。利用者は、できる範囲でテーブル拭きや盆拭き、下膳などを手伝っている。職員は同席して同じ食事を摂り、介助や見守りをしている。母の日、父の日などに外食を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調により、食べる量・栄養バランスを変化させ、飲み物の内容を変えることによって、食事量・水分量の確保は出来ております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各人の能力に応じた口腔ケアを実施しております。（自立から介助まで）		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご利用様の考えを第一に、各利用者様の能力・パターンを把握し、トイレ誘導しております。	排泄チェック表で記録を取っているが、主として利用者の様子を見ながら声かけや誘導をしている。ほとんどの利用者が、トイレまで誘導したり見守りをする中で自力で排泄を行っている。夜間は、定期巡回で声をかけ、誘導や介助をしている。無理に起こさず、睡眠を優先する場合もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の調整・牛乳の利用により、個々に応じた対策を講じております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴日は決めておりますが、ご利用様の都合に合わせて、日程・時間は柔軟に対応しております。	入浴は原則として週2回とし、希望があれば回数を増やすこともある。体調などによりシャワー浴、清拭、足浴に変えることもある。浴槽は両側に空間があり一部開閉式になっていて、介助がしやすい。浴槽の湯は、衛生に配慮し、1人ずつ入れ替えている。ヒートショック対策として暖房器具を設置している。菖蒲湯や柚子湯で季節を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の様子を随時把握し、眠気がある時は、昼間でも昼寝を進め、ご本人の生活リズムで就寝・起床頂いております。環境面での支援として、寝具の清潔を心掛けております。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法や用量については、都度確認し、影響の大きな薬については、フロア会議で徹底しております。服薬による変化は、記録するとともに、医師へ伝えております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各ご利用者様の好みに合った過ごし方を伺ったり、提案することで支援しております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出・外泊支援は、ご利用者様の希望、ご家族様のご協力のもと実施出来る様、心掛けております。	事業所の周辺は、坂道で散歩にはむかないため、日頃は幅の広い廊下を歩いている。天気の良い日は、広いベランダで外気浴や日光浴をしている。各地の花見、2週間ごとのドライブ、母の日や父の日の外食、近隣の施設のひな祭り見物、小学校運動会見学など外出の機会を多く作っている。職員が伴って買い物へ出かける方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人・ご家族様の希望に応じて、所持・利用の支援をしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の能力に応じ、電話の取次ぎ・仲介、手紙の代読・代筆を行っております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間では、適温・適湿・消臭を心掛けるとともに、飾り付けで季節感を感じて頂き、ご利用者様の写真を張り出すことで、心地よさを増す努力をしております。	共有部分はバリアフリー構造で広々としている。リビングは窓が大きい為、採光がよく明るい。中央にカーブミラーを設置して、キッチンで調理しながら全体を見渡せるようにしている。空調設備と加湿器で、温度・湿度を快適に保っている。壁には、利用者と職員と一緒に飾り付けた季節ごとの行事の写真を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いフロアを活用し、各所にソファ・椅子を配置することにより、ご利用者様の思いに応えられる、居場所づくりを提供しております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ご利用者様・ご家族様の要望に応じた空間作りを心掛けております。	居室は、空調設備、照明器具、収納設備、介護用ベッド、防災カーテンを備えている。利用者は、テレビ、テーブル、チェストなど馴染みの家具類や仏壇、家族の写真などを持ち込んで、住み心地良くしつらえている。清掃は職員が行うが手伝う方もいる。居室の表札は花の写真を入れた額縁に名前を添えるなど個性的である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ドア部分には、大半のご利用者様が理解できる掲示をし、自立可能なようにしております。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームまっとう

作成日 平成28年12月06日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害備蓄の管理表を作成して備蓄品の状況を把握し、回転備蓄を実施することを期待します。	災害備蓄の管理表を作成し、随時備蓄状況を把握の上、消費期限前の、備蓄利用による、非常食体験を実施する。	管理票を作成する 備蓄利用による非常食体験を実施する。	実施済み 1カ年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。